

2022 年度第 1 回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2022 年 5 月 26 日（木）9 時 30 分～12 時 30 分

会 場：豊岡市役所本庁 7 階 第 3 委員会室

出席した委員：山室敦嗣、雀部真理、安藤有公子、木築基弘、高橋佳大、田原美穂、
戸田勝之、西垣由佳子、野世英子、洞田美津子、増原直樹、村田美津子、
山下正明、吉本初司

欠席した委員：青柳順子

事 務 局：市民生活部 部長 瀧下貴也、生活環境課 課長 成田和博

地球温暖化防止対策室 室長 井上浩二、主任 大逸優人、主事 岸谷依子

担 当 課：コウノトリ共生部農林水産課

林務・水産係 主幹 西村文紀

環境農業係 係長 松下貴俊

グッドローカル農業推進室 参事兼室長 山本隆之、主任 仲田直樹

環境経済部環境経済課

経済政策係 係長 雨森良太

1 開会（司会：井上室長）

- ・会議の公開、会議録の公表を確認
- ・配布資料の確認

2 あいさつ

- ・瀧下部長より挨拶

3 辞令交付

4 自己紹介

5 会長・副会長の選任について

- ・会長 山室敦嗣、副会長 雀部真理

6 協議（議長：山室会長）

（1）環境審議会の進め方について

【会 長】環境審議会では、自然環境はもちろんのこと経済、コミュニティ、文化等、自然環境だけでなく生活環境や経済と環境との関わりについても審議を行う。環境審議会は年 4 回あり、うち 2 回は環境報告書についての審議を行う。環境報

告書は1部から6部構成となっており、豊岡市の環境がどの程度目標像に近づいているか目標の進捗状況を毎年審議し、環境報告書を作成する。また、審議会にて提案いただいた意見を市の施策に反映できるような仕組みを作っている。具体的には、環境審議会に担当課の職員に来ていただいたり、昨年度は環境審議会にて出た意見や内容を市長に直接伝えるということを実行した。また今年度からは、部長級以上の幹部職員が参加する定例庁議で環境報告書の内容を報告してもらう。

【事務局】環境報告書は、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」に基づき、毎年環境の状況や計画の取組状況等について環境審議会での意見を付して公表するとしている。環境審議会にて審議するのは第2部「目標とする姿への取組状況」と第6部「2021年度の環境に関する取組について豊岡市環境審議会の意見」で、本日は第2部を審議する。年4回の環境審議会のうち、後半の2回については地球温暖化対策についての審議を行う。今年度から来年度にかけて地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定を予定している。

（2）2021年度環境報告書（案）について

【会長】目標像①～⑩まで順番に審議する。事務局から説明をお願いする。

【事務局】2021年度環境報告書について説明する。今回を含めた2回の審議会でもとめ、昨年度の報告書を踏襲した形式で今年度も作成する。今回は第2部の目標像①から⑩まで審議する。事務局案としてトピックスの項目を資料に記載しており、今日の審議会にて項目を確定したい。項目の内容は次回の審議会にて協議する。目標像①豊かな森、目標像②里山、目標像③田んぼ、目標像⑧ごみ、目標像⑩環境経済については、担当課が出席し、審議が終われば退席する。2021年度の評価について、コロナウイルスの影響で活動できなかった項目については評価が難しいため一部削除している。ただし、コロナ禍であっても規模を縮小して開催した活動等評価できる部分は評価している。第6部「環境審議会の意見について」は、次の審議会にて協議する。限られた時間での協議となるため、配布した「第6部 環境審議会の意見」に記載する内容を次回の審議会までにあらかじめ記入してほしい。

《評価基準》

- ・よくがんばりました：▲(マイナス評価)より○(プラス評価)が3つ以上多い
- ・この調子でがんばろう：▲より○が1～2つ多い

・もっとがんばろう：▲と○が同数、または▲が多い

目標像① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【事務局】昨年度までの環境報告書には、豊岡産ペレット販売量のグラフを記載していたが、2019年度をもって生産を終了したため、グラフを削除した。その他大きな変更点はなく、記載のグラフに昨年度の数値を追加し更新した。トピックスは、間伐することの意義について記載を検討している。間伐することで、森林マネジメントサイクルが構築され土砂崩れを防ぎ、生態系の保全にも寄与する。評価案は、「○住宅への木質バイオマス利用機器の設置が広がりつつある」、「○バイオマス発電所へ間伐材を順調に搬出している」に基づいて、「この調子でがんばろう」の評価としている。評価案に基づき赤字で記載しているものは追加修正したもの、黄色着色は数値等が未確定で評価が変わる可能性があるものとしている。「○バイオマス発電所へ間伐材を順調に搬出している」が黄色着色の理由については、8ページに「2020年度は通常の供給体制に戻り、朝来バイオマス発電所との協定に基づく割当量以上の供給実績となっています。」と記載があるが、本当に割当量以上の供給となっているかどうか不明確なため、審議会で評価項目として適しているかどうかを議論してほしい。

【会 長】意見や質問があれば発言してください。

【委 員】協定書に記載の割当量は昨年度が3,300トン、今年度は4,000トンとなっている。ちなみに、県の森林組合連合会が朝来バイオマス発電の事務を担っているが、協定で決められている供給量を満たしていなくてもペナルティはなく、ゆるい決まりとなっている。

【委 員】現在、ウッドショックが課題となっている。コロナの影響もあるが、アメリカの住宅着工戸数が増加しており、輸入木材が減少していること、カナダで森林火災が起こったこと、そして世界的にコンテナの運転手不足等、様々な問題が複合的に絡み合い木材の供給不足が起こっている。元々バイオマス発電事業は、いらぬチップを高く買ってもらうことからスタートしていたが、チップの値段が当初よりも高くなり、朝来バイオマス発電所まで届かなくなっている。

【担当課】朝来バイオマス発電所は平成28年12月に稼働が始まり、未利用の間伐材を中心に燃料の供給が進められた。稼働当初、供給する木材がかなり限られており、供給を増やしていかないといけない状況だった。当時は木材価格が非常に

安く、燃料として木材を供給する方が値が良かったため、用材として使えるような間伐材も朝来バイオマス発電所に供給されていたと聞いている。しかし現状はウッドショックで、世界的に木材の需要が高まっている。少しでも、用材として使える木材を供給する方に今はシフトしているため、燃料で供給していた木材が今は市場に行ってしまうという状況。協定量は守られていないということになるが、豊岡市が搬出している木材については余すことなく利用されている。

【委員】木材が供給されていないことによって発電が滞っているのではないか。

【担当課】供給は減っているが、ストックがあると聞いているため、うまく稼働していると理解している。

【委員】それは、当初予定されていた発電量が発電できなくなっているということか。

【委員】今のところはなんとか保っている状況。

【事務局】グラフだけを見るとマイナスのイメージに捉えられるが、材が材としてしっかりと使われるべきところで使われているという表現にすれば、マイナスではなくプラスの評価になると思うので、書きぶりを調整する。

【会長】次回の審議会で再度提案する。

【委員】木を切っているのか悪いのかの判断を分かっていない人が多くいるため、トピックスで記載があると良い。また、チョコレートの包み紙にも記載があるような、FSC 認証についてもトピックスで触れてあると良い。

【委員】林業ビジョンの策定状況を教えてほしい。

【担当課】林業ビジョンについて、2 年にわたり策定検討委員会を開催し、策定に向けた検討を進めている。2021 年 7 月に委員会を立ち上げ、年度末までに 3 回の検討委員会を開催した。現在、全体像の素案を作っている状況。2022 年度の策定検討委員会で仕上げ、秋頃に公表したいと考えている。

【委員】木質バイオマス利用機器の「市施設での木質バイオマス利用機器設置数」のグラフの数値が 2014 年から変わっていない。グラフについて説明がないと何も

取り組んでいないように見えるため、このままだと指標を載せる意味がないと思うが、どうか。

【事務局】 公共施設にペレットストーブの設置を増やしていくことよりも、既に設置されているペレットストーブを有効に使う方針で進めている。ご指摘のとおり、公共施設に設置されているペレットストーブを活用する方針について説明文を追加する。ただし、数値は今後減っていくため、グラフを削除することも検討する。

【会 長】 評価の理由が「木質バイオマス利用機器の設置」となっているが、市施設での木質バイオマス利用機器設置数の数値が変わっていない。設置補助件数の方は順調に伸びているため、評価案の書きぶりを再度検討してください。

目標像② 里山が様々に利用され、関わる人が増えています

【事務局】 10 ページに記載の農林業獣被害面積及び被害額については、被害面積と被害額の数値が確定していないため未確定としている。林業被害については数値がでており、2021 年度は有害獣の林業被害は確認されなかった。また、有害鳥獣の駆除数は昨年度初めて 8,000 頭を超えた。11 ページ記載の森林公園の利用について、竹野南森林公園と奈佐森林公園の利用者数を記載しているが、どちらも 2020 年度の新型コロナウイルス感染症による外出自粛により参加者数が減ったが 2021 年度は回復した。トピックスは、但東を中心とした自然体験活動を行っている「但東野あそびくらぶ いつなっと」の活動について掲載を考えている。評価案は、「○シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数 6,500 頭を達成している」とし、「○有害鳥獣の捕獲や防護柵の設置、緩衝地帯の整備が進んでおり、農林業獣被害面積や被害額は減少している」については、農業被害額、被害面積の数値が未確定のため、数値の結果により評価を変える可能性がある。

【委 員】 具体イメージで、「食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています」「イノシシやシカは適切に駆除され、肉や皮も多様に活用されています」とあるが、食用の山菜やキノコの知識を持った市民をどのようにして測るのか。指標の選定が難しく思える。また、駆除数約 8,000 頭の有害鳥獣をどのように活用、処理しているのか、分かると良い。

【事務局】 具体イメージで「食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています」を入れた理由について、数年前に環境基本計画を改定した際に、シカやイノシシ

が出ない山に人が入れるようになると、山に生えている山菜やキノコを人が目につきやすくなり、食べられるか食べられないかの判断ができる市民が増えることを期待したため。ただし、山菜やキノコ等の知識を持った人たちについて市では把握できていない。

【担当課】有害鳥獣の処理方法については、埋設が適切な方法とされている。また、利活用については、市内に民間の処理加工施設が2か所あり、活用してもらっている。ただし、施設への動物の搬入数については把握していない。

【委員】駆除した有害鳥獣の埋設は難しい上に、埋設した動物を掘り返して食べる動物がいると聞いている。駆除数が上がっているから良いで終わらせるのではなく、処理方法も把握する必要がある。

【担当課】基本的には埋設で処理をしている。

【委員】現状、埋設はほぼしていないと思う。穴を掘ろうとしても根っこばかりでシカが入るような大きな穴を掘るのは現実的に難しいので、目立たない山の奥に捨てていると思う。そして、それを他の動物が食べ、袋と皮だけがあたりに散乱しているような状態になっているのが実情だと思う。先ほどおっしゃっていただいたように、処理の方法も把握する必要がある。もし、処理加工施設から、搬入された動物の数値が手に入るようであれば入れると良い。また、何回も審議会の意見としてジビエや処理施設について提案をしているが、どの部署も今は考えていないとの回答で終わっているが、そのあたりはどうか。

【委員】加工施設を行政主導で進めると、莫大なコストがかかってしまう。原発の交付金で処理施設を建てた後、経費がずっとかかっているところもあると聞いたことがある。言われた実態についても十分把握しているが、処理施設の課題については一朝一夕に答えが出ない。過去に、豊岡市内部でもシカの処理施設について相当考えられていたが答えが出ず、今の状況になってしまっていると認識している。

【委員】農業をする中でシカの檻の管理もある。檻にシカ、イノシシが入った時は猟師に連絡して来てもらい、撃ってもらうが、撃たれたイノシシやシカはその地域に住む人たちが処理をしなければならない。私たちの地域には3つ檻があり、私が管理している中山間のところでは撃たれた後の駆除がなかなか難しい。後の処理が大変で、一生懸命とろうという気にならない。可哀そうだし、血も流

れる。また、残り2つの檻のうち1つは猟師さんが管理しているが、もう1つは高齢化が進んでいるため、今後2、3年したら誰が管理するのかという問題もある。管理する市民もだんだん減っていくと、畑に入ってくる動物も増える。野菜を作っている年齢の方たちも目に見えて減ってきているため、ここから10年、動物の被害が更に増えるのではないかと不安視している。

【委員】おっしゃるとおり、撃った後の処理が一番の課題。例えば、廃校の理科室や調理室を活用して、処理をする人が肉や皮の販売等自分で運営ができるようなシステムを作れば、お金を有効に使える上に処理の問題も解決できるのではないか。

【担当課】市が主体となって施設を整備する場合は補助が出るが、ランニングコストが赤字になっている自治体が多い。そのため、豊岡市が施設を主体的に運営するのは難しいという考えに至っている。民間が施設を運営する場合、後押しをするような補助メニューは今の所ないが、狩猟者への周知は可能。また、起業をする場合は他の部署が扱っている補助があるので、その紹介もさせていただく。個体の処理についても本来焼却処分が好ましいが、大型動物の骨は大きく機械をいためる可能性があるためクリーンパークでは受け入れができない。そのため、国のルールが示す適切な方法として、埋設での処理を推奨している。

【委員】簡単に解決できる問題ではないが、手付かずのままではまずい。例えば、神戸市ではSDGsビジネスを行うベンチャー企業を応援している。豊岡市でも、地域課題を解決するソーシャルビジネスを行っている企業に優先して補助金を出し、応援すべきだと思う。

【委員】人間が食べるための肉を加工処理する場合、衛生基準がとても厳しい。日本では、ペットのためにお金をかける人が多くいるので、高たんぱく低脂肪のシカ肉のドッグフードを作る等のビジネスモデルを作れば良いと思う。

【委員】市民がジビエを食べる文化の醸成も必要に思う。

【会長】民間の処理施設が2カ所あると聞いたが、その現状や受け入れの経緯を教えてください。

【担当課】1カ所は出石地域で活動されていた地域おこし協力隊が協力隊卒業後に加工処理施設を作った。もう1カ所は、日高地域で猟友会に入っている方が加工処理

施設を作ったと聞いている。

【会 長】 次回の審議会で紹介いただき、来年度の環境報告書のトピックスで取り上げると良いと思う。また、苦勞されている方がたくさんいると思うので、直接話を聞き、現場の実態を説明文に入れることも併せて検討してください。

目標像③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【事務局】 13 ページ記載の「経営耕地面積」及び「農家数の推移」について、5年に一度行われる農林業センサスの結果を記載しているため、今年度はグラフの変更はない。15 ページ記載の「学校給食での豊岡産野菜利用率」の目標値について、利用率は重量で計算しており、2015 年度から「30%以上の利用」を豊岡市独自の目標として設定していることを記載。「学校給食での地場産物利用率」について、これまで農林水産省の「第3次食育推進基本計画」で、学校給食における地場産物使用割合 30%以上（食材数ベース）を目標にしていたが、令和2年度に策定された「第4次食育推進基本計画」から、金額ベースの目標（90%以上）に見直された。これまで、豊岡市学校給食センターが食材数ベースでそれぞれ地場産物の使用割合を出していただいていたが、金額ベースでの算出が困難なため、このグラフについては来年度差し替えを検討。調査を毎年6月と11月に行っており、昨年度の調査から数値の比較が可能。トピックスは、グッドローカル農業推進室が2021年度から発足したことを記載したい。また、環境経済の視点を強め、持続可能な社会の実現に貢献する農業の在り方を検討する豊岡のグッドローカル農業についても併せて記載を検討している。評価案について、「○学校給食での地場産物利用率が目標利用率を達成している」としているが、地場産物利用率ではなく豊岡産野菜利用率が、目標値 30%を達成していることから、これを評価の項目として設定する方が良いと考えている。

【委 員】 目標像に「使われていない農地の利用が進み…」とあるが、高齢化によって農地を活用できておらず、使う人が減ってきている状況下で、使われていない農地の利用が進んでいるというのはどんなイメージか。

【事務局】 使われていない農地をビオトープ水田として活用する等の想定をしている。

【委 員】 農産物を育てる目的としての活用ということではなくて、ビオトープ等別の用途に使われているから、農地の活用が進んでいるという認識でいいのかわか。ただ、目標像に書いてあるフレーズを見ると、いかにも農地が開発されて農業が進んでいるような見え方に思える。例えば、目標像の文言を「環境に配

慮した農地が増えている」とし、コウノトリ育む農法が普及拡大しているようなイメージにする方が良いと思う。今の書きぶりだと、今の農地の現状と逆行しているように見えるため、環境報告書を見た人が疑問に感じると思う。

【事務局】 目標像のフレーズは第2次環境基本計画が元になっている。この計画は2017年に策定され、計画期間が10年となっているため、目標像の書きぶりは次の改定時に審議させていただきたい。

【委員】 休耕田の利活用としてビオトープ水田の面積を示したグラフが掲載されているが、概ね横ばいの中、面積が減少しているのはどういう時か。

【事務局】 豊岡市が、営農組合や個人、団体にビオトープ水田管理委託契約をしている面積を掲載している。契約の際に、常時湛水すること、生きもの調査に協力すること等条件をつけており、仕様書の業務を行えない場合は管理委託を取り消す場合もある。また、豊岡市のすべての小学校区に1ヵ所以上ビオトープを設置する目標がある。ただし、豊岡市の管理委託料も予算額が決まっているため、ビオトープ水田が増えたら、増えた分を他の所で減らすよう調整している。以上の理由から、ビオトープ水田の面積に変動が出ている。

【委員】 ビオトープ水田の管理委託料の予算はどれだけあるのか。

【事務局】 2021年度の予算は概ね360万円だった。10aあたり24千円が年額の管理委託料になる。ビオトープ水田の委託料の財源はコウノトリ基金を充てている。コウノトリ野生復帰のために寄付いただいているものを財源としているため、予算額を増やしたい一方で制限がある。

【委員】 市と契約を結んでいるビオトープ水田以外のビオトープや、水田に限らず土地を有効に活用している例についても市で把握をしているのか。

【事務局】 個人でされているところや、コウノトリ文化館の中にもビオトープ水田があることは把握している。できる限り、市がサポートしたいと考えているが、市内のビオトープ水田すべてを把握できていないのも事実としてある。

【委員】 豊岡で、焼畑農業をされている農家さんがいるので、焼き畑の面積についても応援の意味で記載があると良い。地産地消という言葉と併せて、旬菜旬消という言葉を使っていくことが望ましい。旬のものを旬にいただくという文化を

地域として作っていくことが大切。

【委員】学校給食での地場産物利用率で金額ベースの目標 90%という数値はとても高く感じる。地域の農家を含めて新しい仕組みを作っていないと、達成する目途やスケジュールを組みにくいと思う。目標を達成するにあたり、豊岡市で新しい施策の検討はされているのか。

【担当課】昨年5月に「みどりの食料システム戦略」が国で策定され、農林水産分野におけるカーボンニュートラルを目指す目標や、有機農産物の推進として、国全体で0.数パーセントしかない有機農産物の栽培面積を25%まで引き上げる目標が掲げられている。豊岡市では、全国的にも無農薬栽培の取り組みが行われているが、全体の面積を見るとまだまだ少ない状況となっている。国の補助事業等活用し、有機農業や無農薬の栽培面積を増やすような取り組みを行っていきたいと考えている。また、学校給食は生産から消費までを地域で連携できる上に、公共調達という観点で市が貢献できる場所だと考えている。また今後、新たな施策や仕組みについて提案していきたいと思う。

【委員】何らかの新しい仕組みを作っていないと、90%以上という目標を達成することは厳しいと考えている。また、農政は子育て支援等いろんな面につながってくることだと思うので、それぞれの団体が単体で取り組んでも、結果につながらない。まずは、行政が仕組みを作って進めてほしい。

目標像④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【事務局】17 ページ記載の「川の水質保全」のグラフを見やすいよう修正した。18 ページ記載の「谷山川の水質環境調査結果」のグラフについて、数値が未確定と記載しているが、数値が確定したのでグラフ上に反映し、次の環境審議会で報告する。清掃活動については、規模を縮小して開催されたことと、新たな清掃活動として豊岡小学校の学年 PTA 活動で、近畿大学附属豊岡高等学校の自然科学部と連携した竹野海岸清掃活動が行われた旨記載した。また、単に清掃活動をするだけでなく、環境問題の実情に触れる等学びも含めた清掃活動となった旨も記載した。併せて、昨年度行われた清掃活動の活動一覧を掲載し、トピックスでは、竹野海岸での清掃活動に特化した内容で記載を考えている。これまでの評価のうち、「▲大雨の後、河川敷の葦や刈り草などが海に流れている」及び、「▲不法投棄を減らすための対策を講じているが、状況は改善していない」の2つを記載していたが、定量的に測れない評価になっている。現状、市民が主体となって行う清掃活動が増えつつあることや豊岡市も清掃活動

を実施していくことから、定量的にカウントができることが見込めるため、評価案の項目に「○清掃活動に取り組む方々が増えている」を追加し、「▲大雨の後、河川敷の葦や刈り草などが海に流れている」を削除し、この調子でがんばろうの評価で掲載を考えている。

【委員】ごみが定量的に測れないというのは、重量比でということか。

【事務局】不法投棄で外に出ている分を定量的に測ることができないということ。

【委員】実際に拾い上げて、測ることができないということか。

【事務局】不法投棄されているごみを全て回収して、どれくらい状況が改善しているかを定量的に測れないため、評価が難しいと考えている。

【委員】回収して判断することは難しいと思うが、写真判定という評価の仕方もある。不法投棄の場所は谷合が多く、一度捨てられるとなかなかそこから動かない。写真で判定することによって、前年と比べて量の変化を客観的に見ることができる。関連して、看板の設置基準は市民からの依頼で設置するのか、または行政が判断しているのか。また、不法投棄対策で看板数が上下しているところがあるが、古いものから新しいものに取り換える際に枚数が増減しているのか、それか、新規で看板を設置したり設置をやめたりすることで数値が変わっているのか伺いたい。

【担当課】看板の設置基準について、市民からの要望に応えるケースも行政が判断して設置するケースも、どちらもある。

【事務局】看板について、不法投棄のあった区の区長が看板を取りに来る。2018年度は79枚、2019年度は67枚看板が設置されたが、意識の高い区長がいらっしやっただことが数値に表れていると認識している。また、経年劣化で汚くなったり割れたりしたものも含めて数値としてカウントされている。カメラの抑止力が高いため、地域から毎年同じ場所にカメラを設置してほしいと要望がある。

【委員】不法投棄の看板よりカメラの方が効果が高いのか。

【事務局】人目につかないような峠等に不法投棄をするケースが多いので、効果はあるように思える。

【委員】カメラや看板の設置をやめた箇所はあるのか。

【事務局】看板は把握できていない。また、カメラについても毎年同じ場所に設置をしていない。不法投棄が増えてきた箇所があれば、少なくなってきたところからカメラを動かすようにしている。また、1年経たずに動かす場合もある。

目標像⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【事務局】20 ページ記載のグラフ「コウノトリ野外個体数」と「野外コウノトリの繁殖状況」について、コウノトリの郷公園が発行している「要覧」という冊子に基づいて数値を確定させている。要覧の発行は8月のため、数値は未確定。グラフ「小さな自然再生活動支援助成件数」について、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策による活動自粛により申請件数が減少したが、2021年は4件増加した旨記載した。21 ページ記載の「湿地管理ボランティア数」のグラフについて、新型コロナウイルス感染症対策の影響によりボランティア活動が減少し、参加者数も減少したため、2021年度も2020年度と同数程度となった。トピックスについては、豊岡市が進める「自然再生アクションプラン」に取り組む地域について記載を考えている。「自然再生アクションプラン」とは、コウノトリの生息適地のエリアにおいて効率よくコウノトリがより住みやすくなる湿地づくりを行う計画のこと。地域の方々と地域課題を解決しながら進めていく内容になっており、日高エリア（三方地区）と出石エリア（日野辺区、鳥居区）で取り組みを進めている。ただし、日高エリアはコロナ禍でまだ事業が進んでいないため、出石エリアでの取り組みについて記載を考えている。評価案について、これまで「▲外来種駆除が進んでいない」としていたが、全く進んでいないわけではなく、アメリカザリガニやオオキンケイギクの駆除等頑張っており、取り組まれているため「▲外来種駆除が難航している」という記載に変更し、「この調子でがんばろう」の評価とした。

【委員】グラフ「コウノトリ野外個体数」と「野外コウノトリの繁殖状況」について、どちらも全国の状況を表している。豊岡市では60羽前後がキャパシティいっぱいという認識でいる。このグラフだとコウノトリの個体数がどんどん増えていき、環境が良くなっているように見える。豊岡市にいるコウノトリの個体数のグラフを掲載し、参考として全国のグラフを掲載するのはどうか。現状、豊岡からどんどんコウノトリが出て行っているのだから、環境が変わればもっと増えるかもしれないし、もしかしたら60羽が上限かもしれないが、全国のグラフではその比較ができない。

【事務局】 グラフ「野外コウノトリの繁殖状況」のオレンジの部分は市内で繁殖しているペア数を掲載している。おっしゃるとおり、60羽前後がキャパシティと言われているが、明確に現時点で何羽いるのか、また、どの時点を基準にするかも判断が難しい。グラフは全国の個体数について記載しており、説明書きのところで60羽前後のコウノトリが常に市内にいることを、コウノトリの郷公園が出している論文等を参考に記載する。

【委員】 60羽が現状いっぱいなのであれば、それを維持していくことが大事。個体数が減っていかないように、現時点で何羽いるかを載せておくだけでも意味合いが変わってくると思う。大幅に数が減ってくれば豊岡の環境に何か問題があることが分かるし、増えている傾向であれば、環境が良くなっていることが分かる。

【事務局】 コウノトリの目撃情報や掲載されているサイト等を参考にし、記載を検討する。

【委員】 グラフ「国交省自然再生事業湿地整備面積」について、整備面積が年々増えているが、ここまで整備ができたというような地図が出せるのであれば、視覚的に分かりやすいと思う。もし、地図の掲載が可能であれば、トピックスに掲載することを検討してほしい。また、グラフ「小さな自然再生活動支援助成件数」について、活動している拠点を地図上に掲載するのはどうか。

【事務局】 地図の掲載について、国交省に確認する。

【委員】 前段で外来種について触れられないまま、トピックスで外来種の話が突然出てきている。ただ、指標になるものがないので、せめて、円山川沿いのオオキンケイギクの花盛りの写真を入れて、何の話をしているか視覚的に分かりやすくすると良い。

【委員】 通常代掻きは1～2回行うが、コウノトリ育む農法では代掻きを3～4回行っている。ゲンゴロウやカエル等の田んぼに住む生きものがかき回されてしまう。田んぼの脇に穴をあけて生きものの逃げ場を作ることが理想的だと思うが、小さな田んぼが空いてくることが見込めるため、そうした田んぼを活用することが望ましいと考える。農業者だと機械があるので、簡単に代掻きを行うことができる。定期的に代掻きを行えばよいと思うが、タダではできないので補助金を活用することも視野にいれると良いと思う。

【事務局】いただいた意見は、第6部での提案とする。

目標像⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます

【事務局】23 ページ記載のグラフ「歴史博物館来館者数」について、2021 年度は来館者数が増加している旨と併せて歴史博物館での公開講座の件数が大幅に増加した旨記載した。24 ページ記載の地域コミュニティの行事事例について、9 月頃発行される 2021 年度地域コミュニティ組織活動事例集に基づいて、2 地域取り上げて紹介することを考えている。トピックスは、竹野焼杉板イベント「ヤキータ」及び城崎中学校とコミュニティ城崎で実施した「腐葉土づくり」の2つを掲載する予定で考えている。評価案について、昨年度同様、この調子でがんばろうの評価にしたいと考えている。

【委員】トピックスで挙げられている腐葉土づくりは、コミュニティ城崎で実施している「縁が和プロジェクト」の取り組みのこと。清掃活動をして、拾った落ち葉を使って中学生が腐葉土を作る。地域住民も腐葉土づくりを手伝いながら、できた腐葉土で花の鉢を作ったり野菜を作るのに活用したり、地域の農家にも腐葉土を配布している。育てた野菜は朝市で販売している。また、独居老人に育てた花の鉢植えを配る等、住んでいる地域の環境がすべてつながるような活動を行っている。特別な技術やお金がいるわけではないため、いろんなことにつながっていく例として、参考になれば幸い。

【委員】「縁が和」というブランドでラベルを作られており、地産地消や SDGs の仕組みが入っているので、他の地域の参考になると良い。

【委員】豊岡コミュニティでは、まち探検を行っている。地域のことを地域に住む人たちが知ることをコンセプトとしている。地域について知ってもらうことで地域に関心や愛着が生まれると思う。

目標像⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【事務局】26 ページ記載のグラフ「コウノトリ KIDS クラブ会員数」について、2021 年度から活動を再開し、募集人数を上回る 18 人が参加した旨記載した。また、グラフ「出張！田んぼの学校」実施回数について、2020 年度と比較すると実施団体数が増加した旨記載した。27 ページ「高校生等地域研究支援補助件数」について、2021 年度の研究一覧を記載。グラフ「子どもの野生復帰大作戦参加者数」について、「子どもの野生復帰事業」は「植村直己冒険館機能強化事業」に引き継がれることになり、2020 年度の冒険館リニューアルオープンに伴い事

業が終了したため、2021年度の実績は0人となっている。また、来年度以降の環境報告書からは削除を検討している。28ページの「学べる地域環境」について、ビオトープ水田面積を記載している。2021年度は新たに八代校区、弘道校区、福住校区の3校区にビオトープが設置された。トピックスは、昨年開催された「第6回コウノトリ未来・国際かいぎ」について記載を考えている。評価案について、昨年度除外していた「○コウノトリ KIDS クラブに定員以上の応募がある」項目を追加し、この調子でがんばろうという評価にしようと考えている。

【委員】近畿大学附属豊岡高等学校の1年生が企画提案した、「地元のカニでプラスチック削減」が賞をとったので、共有する。

【事務局】今年度賞をとったので、次回の環境報告書のトピックスで記載を検討する。また、次回の環境審議会で内容について紹介する。

目標像⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減って ます

【事務局】30ページ記載のグラフ「資源ごみ集団回収補助金申請件数（延団体数）」を今年度、新たに追加した。説明書きの部分で、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響により、資源ごみ集団回収が中止されたことにより回収量が一段と減少し、2021年度も同水準となっていること、また、補助金申請団体数＝活動数としている旨記載した。トピックスは、昨年度策定された「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」について記載を考えている。評価案について、「○市民一人当たりのごみ計画収集量が減少している」とし、この調子でがんばろうの評価としている。

【委員】徳島県上勝町の取り組みの一つに「くるくるショップ」という、いらぬものを持ってきて、欲しい人が無料で持ち帰るシステムがある。そこでは重量を図って、どれだけごみが減ったのかをカウントしている。また、豊岡コミュニティではバザーを開催し、地域の方からいらぬものを持ってきてもらい、欲しい人たちに全部届けたり、だいかい文庫では1冊本を置いたら、1冊好きな本を持って帰ることができる仕組みを行っていた。欲しい人といらぬ人のマッチングのやり方も様々あり、今後、指標の一つとして挙げられると良いと思う。

目標像⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【事務局】 32 ページ記載のグラフ「市街地循環バス（コバス）利用者数」について、2020 年度は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛によりコバス利用者が減少したと考えられる旨記載しているが、2021 年度の利用者数が増加したことについての説明がないため、追加で記載を考えている。2021 年度から事業者用の太陽光発電システム設置補助制度が始まったため、33 ページ「事業者用太陽光発電システム設置補助」の表を新たに追加した。トピックスは、昨年 7 月に公用車として導入された超小型電気自動車「C+POD」について記載を考えている。評価案について、前年度同様この調子でがんばろうの評価としている。

【委員】 大規模太陽光発電所の収入金額の記載があるが、金額ではなく CO₂削減量を表す方が良いのではないか。

【委員】 お金の使い道を書いているので、収入は残したまま CO₂削減量を追記すると良いのではないか。

【事務局】 そのように追記する。

【委員】 原油換算や CO₂換算のような簡単な計算式があるので、活用すると良い。

目標像⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【事務局】 35 ページ記載のグラフ「環境経済認定事業者数」について、年々増加しているように見えるが、認定事業者から外れた分を反映できていないため、グラフを修正する。なお、認定事業者数から外れた分を引くと、横ばいのグラフになる。また、昨年度認定された環境経済認定事業者 3 者について掲載している。36 ページ掲載のグラフ「コウノトリ文化館来館者数（単年）」について、2020 年度及び 2021 年度は、緊急事態宣言中の閉館により、来館者数が減少した旨記載した。37 ページの「市外からのボランティア活動による交流・地域活性」について、2021 年度の市外からのボランティア件数の表記が漏れているので担当課に確認し表中に反映する。トピックスは、豊岡市が「持続可能な観光地世界トップ 100 選 2021」に選出された旨記載を考えている。評価案について、「○コウノトリ育むお米の輸出国、輸出量が増加している」を、「○コウノトリ育むお米を海外に順調に輸出している」に変更する。また、「○環境経済認定事業者が年々増加している」とあるが、認定事業者数から外れた分を引くと増加しているとはいえないため、評価項目として掲載すべきかどうかについて

て議論いただきたい。

【委員】社会課題を解決するソーシャルビジネスを事業として行う企業にこそ応援をしてほしい。兵庫県で行っている「SDGs チャレンジ事業」では、スタートアップだけでなく情報発信やアウトプット等ランニングコストも支援している。また、すべての補助金、申請について「環境配慮はどのようなことをしているか」、企業であれば「どのような宣言をしているか」等の項目を入れてほしい。

【事務局】いただいた意見は、第6部で記載する。

【委員】環境経済認定事業から外れた事業者があり、環境経済認定事業者数の累計が横ばいということだが、新規で追加された事業者もあるので前向きに捉えた方がよいと思う。ちなみに、認定事業者が環境経済認定事業から外れた理由は何か。また、認定事業者になることでメリットはあるか。

【担当課】環境経済認定事業から外す理由について、認定事業者には前年の実績について毎年報告を求めている。報告時に、認定事業が実施されていない場合は取り消すようにしている。認定事業者のメリットについては、市ホームページへの掲載や豊岡駅改札前、市役所1階のモニター等で、認定事業のPRをしている。また、環境経済認定事業を推進する事業であれば、豊岡市ステップアップ支援補助金の補助率をかさ上げする場合がある。

【委員】補助金の補助率のかさ上げは、認定されている事業者に限って適用されるのか。

【担当課】環境経済事業に認定されている事業者が行おうとする事業が、環境経済認定事業を推進する事業であれば、補助率をかさ上げする。環境経済事業に認定されていても条件に当てはまらなければかさ上げの対象にはならない。

【委員】今後は補助金だけでなく、信用保証や融資の制度も必要になると思う。

【委員】認定事業者になったことで、信用金庫や銀行、商工会等横のつながりがたくさんできた。補助金も活用でき、認定してもらえた恩恵を感じている。

7 その他

- ・第2回環境審議会について
- ・委員報酬の振込について

8 閉会

- ・雀部副会長あいさつ